
日本オワタ \ (^o^) /

ヤヒロー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日本オワタ＼(＾o＾)ノ

【コード】

N89900

【作者名】

ヤヒロー

【あらすじ】

日々感じる事、マスコミおよびネット世論批評。

2011・11・13 APEC始まる。

2010年11月13日、アジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議が横浜で始まった。

尖閣諸島における漁船衝突事件以来の緊張関係にある日中関係および民主党菅政権にとっては、ひとつの転機となりうるタイミングでの開催だ。

APEC自体の最大のテーマは、アジア太平洋経済圏における貿易自由化の合意づくりであるが、これは後述することとして、マスコミや国民の最大関心事は、15年ぶりの日本開催となったAPECにおいて、外交で苦境に立たされた菅首相が反転攻勢のきっかけをつかめるかどうかということにあると思われる。

ここでわたしが疑問を呈したいのは、菅政権の支持率ばかりに目を向ける世論の動向に対してである。

国益を考えたとき、まず出だしとして本夕刻に中国の胡錦濤国家主席と、22分間とはいえ直接会談を持てたことは朗報であろう。

会談結果の第一報として、

両首脳は会談で（1）長期的に安定した戦略的互恵関係の推進（2）政府間、民間分野での交流促進（3）経済分野も含めた地球規模の課題での協力強化に取り組むことで合意。尖閣諸島をめぐる問題について、福山氏は記者団に「首相は日本の確固たる立場を伝えたい」と語ったが、胡主席の反応を含めて会談の詳細については「外交上の理由から差し控えたい」として明かさなかった。

中国側が輸出を抑制しているレアアース（希土類）問題では進展があった。大畠章宏経済産業相は同日、中国の張平・国家発展改革委員会主任（閣僚級）と会談。張氏は「税関での検査を早めるなどして近く輸出の手続きを適正にする」と語り、輸出停滞の状況を中国政府として改善する姿勢を示した。（朝日新聞社速報）

マスコミとネット世論においては、菅政権は批判の猛攻にさらされてきているが、本日の会談結果においては考えられる最良の回答を中国政府から引き出したと言えるであろう。

そのせいか、今週の報道およびネット掲示板における火のついたような政権批判が、本夕が土曜の夜というネット投稿が多い時間帯にしては、やや落ち着いたものとなっている。

日露首脳会談

前項で菅直人と胡錦濤国家主席との会談を取り上げたが、同日にはこれと同じく重要な会談があった。

菅直人首相は十三日夕、ロシアのメドベージェフ大統領と横浜市内で約四十分間会談した。大統領が北方領土の国後島を訪問したことについて、首相は「（北方領土は日本固有の領土という）日本の立場、国民感情から受け入れられない」と抗議した。（東京新聞）

胡錦濤国家主席と会談が未定であった国会論戦において、自民党議員から「会談することがあれば、尖閣諸島は日本固有の領土と明言するか、しなかった場合には総理を辞任するように」と迫られ、領土の主張は前述のように明言してみせた菅首相であるので、たとえ会談がどんな結果になろうともヒステリックに批判してやるぞと決め込んでいる自民党議員の態度に、わたしは同意しかねる。

事前にまるで期待されていなかった日露会談であるが、菅総理ははつきりと抗議の意を伝え、北方領土の帰属をめぐって「今後も首脳間で議論を深めたい。領土問題の解決を含め、日口の協力関係を発展させたい」との考えも表明した。

これに対し、メドベージェフ大統領は「北方領土はわれわれの領土であり、それは今後も変わらない」との立場を説明したとあるが、逆にロシア大統領からこれ以外の言葉が出てくる事は誰も想像していなかっただろう。

重要なのは一方で、大統領が「経済分野で関係を発展させていくことで、両国の雰囲気改善していくべきだ」と主張。首相も、経済面での協力を進めたい意向を示した。

大統領選を控えたメドベージェフ氏の立場からすれば、さらなる

強硬発言が飛び出すことも十分に予想された事からすれば、菅首相が来年訪口するよう招請してきたことなどは、望外の穏健な対応といえる。

ロシアとの会談は、対中国局面の前に二の次とされていた感があるが、当初の予想に反して前向きな対応をロシアから引き出せた事は幸いである。

菅政権への批判の一つとして、弱腰な姿勢が相手に付け入る隙を与えているという事であるが、これは国民も大いに反省すべき事である。

もし、この批判が的を射ているならば、国民が内閣を使い捨てるに
する現状こそが、外国にとっては絶好の覇権拡大のチャンスなのだ。
この機にさらなる攻め手にロシアが出てこなかった事が意外なくらいであり、それがもし我が国外務省の働きかけであれば、これは賞賛に値する事である。

なお首脳会談に先立ち、前原誠司外相とロシアのラブロフ外相が
会談し、北方領土問題について、双方が受け入れ可能な解決策を模
索することを確認されている。

スベランカー国家 日本

11月19日 日経平均株価は一万円を回復、為替相場も1\$=83.5円と先週より大幅な円安となった。

外貨預金やFXをしている人間ならちよつとしたボーナスになった人も多いだろう。

前項までの内容で菅政権びいきと思われたかもしれないが、おおよそ企業人、経済人はわたしと同じ見解であると思う。

事実、ワイドショーやネットでこれほど尖閣諸島問題で政権批判があつても、職場でそのことを話題にする人間が少ない事を思い出しでもらえばわたしの言いたいことが理解できるだろう。

現在、菅政権は経済政策においては着実に成果を出していると言える。

小泉政権以降、日本は短命政権を繰り返し、やっと政権交代にこぎつけたかと思えば、鳩山政権も短命政権に終わり、与野党交代の立役者である小沢氏も表舞台から降りた。

マスコミはよく、このような日本のあいつぐ内閣交代が、海外から日本の指導力の低下、ひいては日本の国力低下につながっていると評されるが、この見方は正確ではない。

海外のマスコミが日本の首相辞任を報じるときは、短期間で総理交代を求める日本国民の不思議な国民性とセットで報じている。

はつきり言うと、短命政権の連続を海外は政治家の資質でなく、日本人のこらえ性の無さと捉えている。

小泉純一郎政権が国民に与えた傷は計り知れない。アメリカのJ・ブッシュ元大統領は盟友と持ち上げるが、テロとの戦いと称したイラク戦争を他の先進国首脳が疑義を呈する中、全面的に支援したのだから当然だろう。

小泉元総理は確かに人気があつたが、続投していたらさすがに国民の憎悪が膨れ上がって大変なことになっていただろう。節目で引

退した事は賢明といえる。

ただ最近の小泉進次郎氏の人気を見ると、日本人はつくづく愚かしいとさえ感じる。

喉元過ぎればなんとやら、だろうか。

東京都青少年の健全な育成に関する条例の一部を改正する条例(案)

石原が中国人を攻撃したとき、私は中国人嫌いだったので拍手喝采した。

ついで石原は朝鮮人を攻撃した。私は朝鮮人も嫌いだったので「石原閣下！」と賛美した。

ついでサヨクが攻撃された。私はもつと大喜びして「真正保守」と絶賛した。

サヨク連中は「次は君達だぞ。これは忠告だ。」と断末魔を上げていたが、単なる負け惜しみだろうとあざわらった。

権力者を賛美して体制側に付き、権力者が嫌う集団と一緒に頑張ってバッシングしていれば自分は権力者の仲間であり、安全なんだから。

そして次の選挙でも「三国人やサヨクを東京から消してくれる愛国者の石原閣下を再選させよう！」とネットに書き込んで3選させた。

2010年、石原はついにマンガを攻撃しはじめた。私はびっくりして、オタクだったから石原に反対した……しかし、それは遅すぎた。

オタクのために声をあげてくれる者は、既に壊滅させられ残っていないかった。

あのサヨク連中の言っていたことは正しかった。石原にとっては、中国人も朝鮮人もサヨクも我々オタクも、同じ「軽蔑すべき」差別対象だったのだ。

最初に反対していれば防げたかもしれない。しかし我々は石原を賛美して3回も再選させ、「敵対勢力」を作り上げてバッシングする手法を手助けまでして、ついには自分自身に矛先を向けられる羽目になってしまった。

そして日本のマンガは、石原が任命した委員会の認める「清く正しい」作品だけとなり、オタクは死に絶えた。

ネット世論と現実社会の乖離

言うまでもなく、東京都青少年の健全な育成に関する条例の一部を改正する条例（案）に対するネット世論は圧倒的に反対派が多数である。

しかし、ご存知のように現実社会では圧倒的多数の賛成で条例改正案は可決された。これはどういうことだろうか。

なにかネット世論という勢力と、現実の世論という二つのことなる世界が日本国内に存在すると考えるのが正しいだろう。

このことをふまえて、民主党菅政権批判を考える。

ネット世論のみならず民主党の支持率は下降しているのです、この件に関して現実の世論もネット世論と歩調を合わせていると考える事はできるだろうか。

正確に言うと、マスコミが民主党批判に舵を切ったことから、世論は忠実に大規模マスメディアの意図通りの支持行動をとっていると見ることが出来る。このあたりは、安倍政権以降の短命政権を生み出す支持率下降スパイラルをマスコミ報道が今回も踏襲したものとと言える。公平に言えばマスコミは民主党寄りの報道を行うというネットのマスコミ批判が当たらずに、リベラル勢力とみられるマスメディアが、民主党に対してもなんら手加減する事無く国民に対する政治的影響力を誇示したと考えるのが妥当であろう。

つまり、今回の民主党退勢においても、ネット世論と現実社会は同方向のベクトルを進みながら、その道は平行線を辿り、同じ道を

歩んではないないということが出来る。

ネット世論と現実社会の乖離という点では、仙石官房長官への人物評が例として特徴的であろう。

次回に続く。

リスペクト仙石由人官房長官

内閣官房長官 仙谷 由人氏に憧れる人間は多いという。
これは皮肉ではない。

ネットやマスコミ報道だけでは、おおよそそのような評価があるとは気づかないだろうが、企業をはじめとする、組織である程度の責任を負う立場で働く人にとっては、学ぶべき、見習うべき点が多く、感銘を受けることが多い人物である。

身近な場所に置き換えると、仙石氏は男性的な緊張感ある職場で共感を得やすいだろう。もちろん女性のなかにも、シビアに、仕事ぶりや実績で男性を評価するタイプの方には人気があるようである。

ネットを中心とした仙石氏の評価は、尖閣諸島漁船衝突事件で批判を受けたように外交姿勢で弱腰、国家観は「自衛隊は暴力装置」発言や、旧社会党所属、学生運動出身であることなどから、実際の政策以上に左派寄り、歴史観や祖先に対する経緯がないなどの中傷を受けることが多い。

自分で聞いたことのない情報は存在自体しない。ネットに長時間接続する習慣のある人間が陥りやすい傾向である。

上述のような肯定的人物評を聞いたことがない人は、首を傾げるだろうが、それはひとえにその人間の社会性や生活範囲のバロメーターといえるだろう。

では、こういった機会に現実社会では政治議論が行われるか。

当然のことながら、社会においては政治家の人物評を大規模な組織を挙げて、会合の場で個々人が議論し、発言する機会は少ない。たとえば、朝出勤したときに始業前、誰かが新聞を読んでいたとき、挨拶代わりの世間話で内閣支持率の話をするところがあるかもしれない。そこで売国奴がどうか、このままでは日本は中韓国の属

国になるとか、愛国心がどうとか。まず、そんな話はしない。

大概は、「まあ、なんだかんだ言われますけど、菅さん大変ですよね」とか、「しかし、仙石さんはすごいですよね。どっちが総理かわかりませんね」とか、そんなところだろう。

まおゆう その衝撃

このところ、しばらく更新を怠けていたので、アクセスもなくなつた。

当然と言えば当然だが、前回の続きも読者が忘れたところだと思うので、なにげない雑記を書こうと思う。

ちまたでは「まおゆう」という作品が人気であるらしい。

ちようど本屋で棚にあつたので手に取ってみた。

ある意味、衝撃的だった。

「え？」

2ちゃんねるあたりで話題になっている人気書籍とのことだったが、だれでも一目見てその異様さに気づくだろう。

「これは、小説じゃない？」

本を開いた人はわかるだろうが、情景や状況を説明する地の文がまったくくないのだ。

魔王「この我のものとなれ、勇者よ」

勇者「断る！」

作品タイトルの通りに全文が、

登場人物名「台詞」

という体裁なのだ。

では作品世界の状況はどのように説明されているのか。

そこはそれぞれのチャプターごとに冒頭数行の説明がある。

つまり、小説ではなくシナリオ形式なのである。

ページ割り付けは二段組みになっているので、空白の少ない部分は良心的である。

「若者の趣向というものもここまで来たのか」

隔世の感があり、本を閉じた。

いや、本の体裁などは大した問題ではなく、リズムや洒落た台詞、ストーリーそのものの展開次第では十分に読者を魅了することは出来るだろう。

そして人気があるということはそういうことなのではないかと考えることにした。

帰宅して、この本の詳細を検索してみればやはり好意的な評価が多い。

おそらく既存のライトノベルレーベルの編集者でさえこの作品を認めることは無いだろうと思うが、こういった出版社を飛び越えた草の根のムーブメントが広がって行くのも面白いのではないだろうか。

おなじ作者のログホライズンという作品も人気があるらしいので、webに自分の書いた文章を掲載している身として、すこしその人気の秘密を検証してみたいと思う。

時間があれば次回以降、ログホライズンについて触れる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8990o/>

日本オワタ＼(^o^)/

2011年10月4日19時18分発行